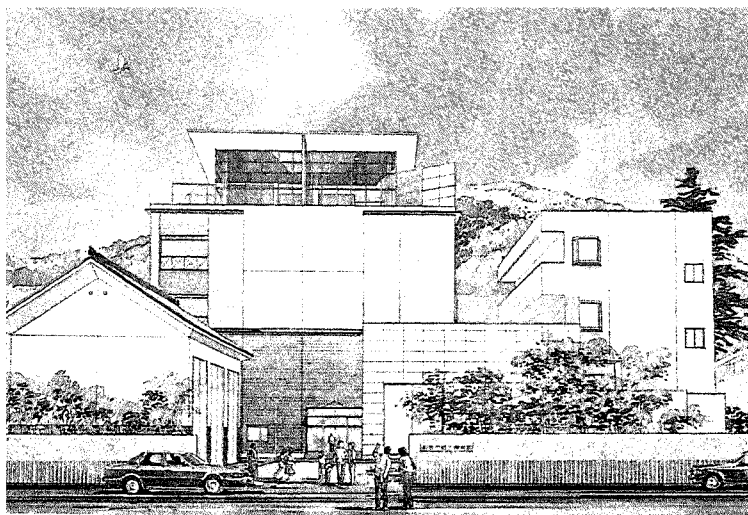


(仮称) 都留市郷土博物館

Q & A



どのような施設になるのですか？

構想検討委員会からの報告に基づきまして、SRC構造五階建延床面積二七三・三七平方メートルの施設となります。

「1階」吹き抜けの屋台・飾幕、展示ホール、事務・学芸員室、トラックヤード、ロビー

「2階」大型映像観覧席、常設展示室、映像調整室

「3階」企画展示室
「4階」収蔵庫、特別収蔵庫

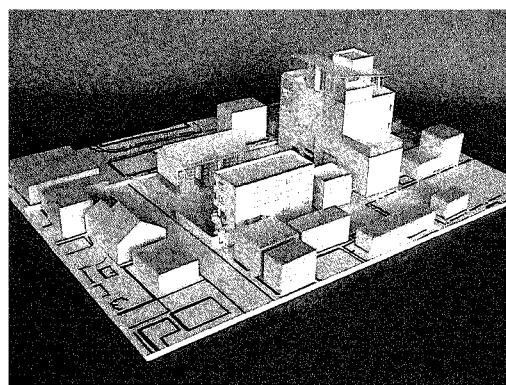
「5階」展望展示室
(郷土学習室)

博物館はどのような役割をもつのですか？

博物館は、次の役割を担います。

＊市を代表する文化遺産である八朔祭屋台並びに飾幕を保管展示する施設。

＊市史編纂事業を通じて収集された膨大な資料と成果を引き継ぐ施設。



＊小山田家をはじめ市民から寄贈寄託された貴重な資料を保管展示する施設。

＊郷土の文化や歴史を学習できる施設。

＊尾県郷土資料館、商家資料館、増田誠美術館、ネイチャーセンターなど市内の関連施設と連携した施設。

博物館では何を展示するのですか？

博物館には、二階に常設展示室、三階に企画展示室を設ける予定で、展示内容としては次のようなことが検討されています。

「常設展示室」

＊考古・歴史資料等により、本市を中心とした歴史、文化の変遷と発展をたどれる展示。

＊本市を代表する文化遺産である八朔祭屋台と飾幕の展示。

文化ホール開館記念特別展

加倉井和夫の世界

白い空間美の魅力

都留市文化ホールの綴帳は、日本画家であり、日本芸術院会員、

日展常務理事であった故加倉井和夫画伯の作品を原画に、画伯みづ

からの手で膨大な系の中から一本

一本の系を選ぶ作業が繰り返され

製作されました。

この綴帳は、単なる作品の模写

ではなく、画伯の新たな芸術作品

と呼べるものとなりました。

このたび市民待望の文化ホールの開館記念特別事業として、昨年

九月に惜しくも逝去された画伯を偲んで、特別展「加倉井和夫の世界―白い空間美の魅力―」を開催し

ます。

現代日本画の巨匠、故加倉井画伯は、白を基調とした知的で近代的な感覚の画風を確立したと言われています。

期間 11月1日～30日

月曜および休日の翌日休館

時間 午前9時30分～

午後4時30分

会場 増田誠美術館

(ふるさと会館2階)

問合先 社会教育課 文化振興係

ふるさと会館

☎(45)4111

第4回ふるさと探検隊

今回は、与縄地区で蚕影山の十三番観音を見学、その後、探検隊恒例の芋煮会を行います。

期 日 10月26日

集合時間 午前9時

集合場所 与縄菅農センター

(与縄橋より盛里方面300

メートル左)

持ち物 筆記用具、芋煮会用野菜

申込先

ふるさと探検隊実行委員会

谷内茂浩 ☎(43)6017